

一般質問発言通告書

議席番号 3 番

氏名 大谷 学

答弁を求める者
(○をつける)

☒市長 ☒教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 国の事業債の活用について

(1) 緊急防災・減災事業債について

① 浜田市における当該事業債の活用事例を伺う。

(2) トイレカーの導入の提案について

① 災害避難所におけるトイレの重要性についての認識を伺う。

② トイレの重要性に鑑み、災害時に備えるため緊急防災・減災事業債を用いて自走式トイレカー導入を提案する。平時においても、イベントや防災教育等に十分に活用できる。特に三宮神社の土曜夜神楽には極めて有効と思うがその認識を伺う。

2. 特定外来生物の発見と防除に向けた対応について

(1) セアカゴケグモについて

① 浜田市における現状を伺う。

② 対応に向けての認識を伺う。

(2) 要緊急対処特定外来生物であるヒアリについて

① 浜田市における現状を伺う。

② 対応に向けての認識を伺う。

3. 文化行政について

(1) 学芸員の現状と今後について

① 職員数とその専門分野を伺う。

② 石見神楽などの民俗芸能に関する学芸員を採用して人的資源を拡充し、石見神楽などの調査研究体制を整えることによって歴史文化の振興を図るべきと考えるが、その認識を伺う。

(2) 市民の文化活動の推進について

東京都練馬区石神井公園ふるさと文化館は、伝統文化を生かし新たな地域文化を創造し、観光振興にも寄与する博物館機能を有する生涯学習施設として約15億円を投じて平成22年に開館している。

① 複合施設として建替が検討されている浜田郷土資料館についても「博物館機能を有する生涯学習施設」と考えるが、その認識を伺う。

② 市民の創作作品の展示・発表などの場として検討される複合施設に常設ギャラリーを検討すべきと考えるが、その認識を伺う。

発言No.

11

受付No.

8

令和 6 年 11 月 21 日

10 時 44 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 11 番

氏名 小川 稔 宏

答弁を求める者

(○をつける)

☒ 市長

☒ 教育長

監査委員

選挙管理委員会委員長

農業委員会会長

固定資産評価審査委員会委員長

公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 会計年度任用職員の待遇改善について

地域を維持し経済の好循環を促すために働く人たちの手取りを増やすことと雇用の安定が重要である。政府も労働者の賃金引上げを推奨しており最低賃金を1500円、2000円に上げていくことは必要であるが、地方の中小企業では容易なことではない。非正規公務員の賃金は最低賃金の対象ではないが、業務委託や指定管理など民間発注の際の賃金算出根拠にも使われている。まずは率先して自治体が非正規労働の賃金引き上げを図るとともに、非正規雇用をなくすことから始め、「民間も見習ってほしい」という方向で進めるべきである。非正規と正規では権利や制度の格差が大きく95%が雇い止めの不安など将来不安を抱えているとの調査結果もあり、待遇改善と雇用の安定が必要である。

(1) 会計年度任用職員の雇止めの現状と処遇改善について

- ①ある全国調査では辞めた人の4割が「仕事を続けたかったが、雇い止めにあった」と回答しているが実態について伺う。
- ②国では3年ごとの公募規定の削除などの変化があるものの、職場ごとで対応に違いがあるとの指摘もある。市の対応状況について伺う。
- ③「3年間勤めたら1年間はその部に再び任用できない」といったルールについてはどのような扱いになっているのか伺う。
- ④職務経歴加算や等級が上がる仕組みについての検討状況を伺う。

(2) 有給の休暇制度や研修受講等の扱いについて

- ①自治体間で格差が大きいといわれる病気休暇など有給の休暇制度の概要と水準について伺う。
- ②「非常勤講師はICT研修が受けられず端末もない」「職務上必要な出張や研修、情報共有の場に参加させてもらえない」といった声もあるが、実情について伺う。

(3) 相談窓口について

- ①「不満や意見があっても上司に相談すれば次年度以降の契約に影響する可能性があり、言えない」という声もあるが、人権や精神衛生などの面から認識を伺う。
- ②安心して相談でき課題解決につなぐ相談窓口の設置について伺う。

2 浜田市が検討すべき条例について

自治体独自で制定している条例の目的や理念を見ると当該自治体は何を大切にし、市民とどういう価値観を共有しながら地方自治を進めているのかを感じとることができ、参考にすべきことは多い。市民が浜田市は人に冷たいまちと感じていれば、あたたかいまちに変えていくことが重要と考える。社会の誰もが取り残された気持ちにならないことが大切であり、みんなが笑顔になれる政策を進める必要がある。人口減少や税収減などの課題はそのためのプロセスであって、幸せだと実感できてはじめて人にやさしくなれ、あたたかいまちに変わることが出来る。特に社会的弱者や子どもに徹底的にやさしいまちを目指すためにも必要と考える3つの条例について質したい。

(1) 更生支援及び再犯防止等に関する条例について

平成20年10月の島根あさひ社会復帰促進センター運営開始から16年が経過している。平成30年1月に同センター・島根県立大学・浜田市の三者連携協定が締結され、令和4年3月には浜田市再犯防止推進計画が策定された。しかし、触法障がい者や身寄りのない高齢者が地域で自立できるための取組・支援は不十分で、就労の場や住まいの確保、社会復帰のための社会的教育への支援体制などが整っていない。「更生支援及び再犯防止等に関する条例」により司法行政と地域福祉の連携を進める必要がある。

- ①更生支援及び再犯防止等に関する条例の制定に対しての認識を伺う。
- ②市が条例制定に向け検討作業に着手するか否かの判断基準や課題について伺う。
- ③更生支援に向けたネットワーク会議設置への考えを伺う。

(2) カスタマー・ハラスメント防止条例について

窓口や電話対応、宅配業者、レジ担当者など接客の現場で対応にあたる人たちへの暴言や理不尽な要求は官民間わず社会問題になっている。従業員保護の観点から民間では不当要求に対する警告文の掲示や、専門家の配置やマニュアル作成等、対応策も講じられつつある。東京都で条例が制定され話題になっているが、行政は啓発活動を進め、カスタマー・ハラスメント対策を後押しすべきである。

- ①市内事業所におけるカスタマー・ハラスメントの実態把握の状況について伺う。
- ②条例制定の必要性について認識を伺う。
- ③相談窓口・対応機関の明確化と周知について伺う。

(3) ケアラー支援に関する条例について

令和3年12月定例会議でのケアラー支援に関する条例についての一般質問に対する答弁は「まずケアラーの実態把握に努めることが重要であり、その後、条例制定の必要性について研究していくこととなる」ということであつた。その後も全国では条例制定が進んでいる。浜田市ではこの3年間、ケアラー支援施策がほとんど進んでいないが、市に条例がなく市の責務が明確になっていないことが一因と考える。

- ①ヤングケアラーの相談窓口への相談件数と評価について伺う。
- ②ケアラー支援条例に対しての検討状況を伺う。

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 22 番 氏名 牛尾 昭

答弁を求める者

(○をつける)

☐ 市長

☐ 教育長

☐ 監査委員

☐ 選挙管理委員会委員長

☐ 農業委員会会長

☐ 固定資産評価審査委員会委員長

☐ 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 浜田市世界こども美術館の持続化について

①10 月に開催された「はまだ市民一日議会」において、世界こども美術館の存続と収益改善につながる素晴らしい提案があった。1. 施設利用が土日祝日に集中していて平日が少ない。2. 利用者が広島市、出雲市、浜田市内の順である。3. 飲食の利用ができない。という 3 つの現状を踏まえ、スターバックスの誘致を提案するというものであった。スタバができると、大学生や子ども連れの若い夫婦の平日利用が増え、入館料を有料にしてスタバ利用者を半額引きにすると入館者増につながる。現在、入館者 5 万人のうち 3 万人が大人で一人 100 円いただくと 300 万円、200 円だと 600 万円になる。スタバ誘致の理由については、1. 若い人たちの圧倒的な支持がある。2. スタバの人材教育が素晴らしい。3. 誘致の可能性があり、全国的に見れば人口 5 万人の都市に進出店舗の実績がある。という 3 つの理由をあげられていた。この施設の維持は、子どもたちの未来に大きく貢献すると思うとの提案であるが、市長の見解を伺う。

②世界こども美術館への浜田郷土資料館の複合化（併設）について、現状の考えを伺う。

2. 水産業振興について

(1) 産業建設委員会の行政視察を終えて

先般、産業建設委員会で富山県氷見市にある県の栽培漁業センターを視察した。昭和 53 年開設で令和 4 年に国の交付金制度を利用して、12 億 3 千万円をかけて再整備されたものである。敷地内は、1800 m²、交流館とふれあい館があり、当初計画は年間 1 万人を見込んでいたが 5 万人の入込客がある。現在の栽培漁業対象魚種は、ヒラメ 18 万尾、アワビ 10 万個、チヌ 22 万尾、クルマエビ 45 万尾で、キジハタは令和 7 年以降事業化を検討、実習室では、氷見高校生がウニを野菜で育成している。なお、滑川市の栽培漁業センターでは、平成 25 年に世界で初めて、ノドグロの稚魚の育成に成功している。平成 27 年から、試験的な放流開始、平成 29 年から国の委託事業として研究を継続中である。

①浜田市はマルハニチロと共同で瀬戸ヶ島での養殖事業化を計画しているが、なかなか進んでいないように感じる。富山県において、令和4年からマルハニチロと三菱商事はサーモン養殖に取り組んでいる。今回は訪問できなかったが、養殖が立地産業と言われている今日、例えば、瀬戸ヶ島で高級魚ノドグロの養殖をマルハニチロに依頼してみてはどうかと思うが所見を伺う。

②昨今、地球温暖化で魚種が大きく変わりつつある。本カツオやサワラなどもそうである。今後は、どこかの二番煎じではなく、南の魚、例えば、アカハタなどの高級魚の種苗生産や養殖にマルハニチロと組んで取り組んでみてはどうかと思うが所見を伺う。

③エサやり水槽でキジハタ（アカミズ）の4年ものが泳いでいた。富山県では、キジハタの評価が高くなく、放流事業をしていないそうである。わけてもらうことが可能かと聞くと、1尾当たりの単価を決めていないとのことであった。是非、放流事業に高級魚のキジハタを加えてみてはどうかと思うが所見を伺う。

(2)はまだお魚市場について

7月30日で境港さかなセンターが事業停止して、10月18日に自己破産申請し、負債総額が10億円と聞いている。浜田市は大丈夫かとよく聞かれることがあり、以下質問する。

①はまだお魚市場の経営状況について伺う。

②入居者の仲買人の経営状況について伺う。

③入船のない日を解消してほしいという要望があるが、ポートセールスの現状について伺う。

④どんちっちアジが不漁で、同じ網のアジの中に、脂のりのばらつきがあり、消費者からクレームがあり、ブランド見直しの声があると聞いているが、現状について伺う。

⑤浜田商工会議所などから、新たなブランド開発の要望書が出ているが、産・官・学で令和のブランド開発研究会（仮称）を立ち上げてはどうかと思うが所見を伺う。

発言No. 13

受付No. 12
令和6年11月22日
9時26分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 4 番 氏名 三浦大紀

答弁を求める者 ○市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
(○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 自治体 DX の推進について

DX（デジタルトランスフォーメーション）は、行政サービスの効率化や市民の利便性向上にもつながる重要な取組である。一方、専門人材の不足やデジタル技術への抵抗感といった課題も多く、DX が進んでいる状況とは言い難い。浜田市における現状を確認するとともに、必要な取組を明らかにしたいと考え、以下質問する。

(1) DX の位置付けについて

①DX の必要性をどのように考えているか。

(2) 公共交通の DX について

①現在の公共交通の状況をどのように捉えているか。

②公共交通に関する事業構築および予算配分の考え方はどのようなものか。

(3) 各市公共サービスのアプリ化の現状について

①健康啓発における状況はどのようなものか。

②防災啓発における状況はどのようなものか。

③公共施設の予約における状況はどのようなものか。

④地域クーポンの発行における状況はどのようなものか。

⑤ゴミ収集における状況はどのようなものか。

⑥子育て支援における状況はどのようなものか。

⑦住民アンケート等における状況はどのようなものか。

以上

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 15 番

氏名 岡 本 正 友

答弁を求める者

(□をつける)

☐ 市長

☐ 教育長

☐ 監査委員

☐ 選挙管理委員会委員長

☐ 農業委員会会長

☐ 固定資産評価審査委員会委員長

☐ 公平委員長

発言項目及び要旨

1・安全で安心なまちづくりの推進について (SDGs11)

これまで当市においても、風水害などの天災や火災のほか、事故・事件など不幸な経験からその対応策が図られている。災害や事故をゼロに抑えることが難しいことから、万が一のときに被害を最小限に抑えるためには、防災、減災・予防等を推進させる官民挙げての連携できる地域コミュニティの必要性を感じている。過去に起きた事例をもとに、市民の協働と参画の仕組みについて質したいと思う。

(1)閉校後の校舎等の施設の利用について

地域の小中学校や教育(青少年ホーム)等の施設は、諸会議やスポーツ、防災訓練にも利活用されるなど地域コミュニティに必要な施設であると思っている。

市町村合併後の人口減少などから小中学校の統合がすすめられてきたが、閉校後の施設の利活用等の課題について質す。

- ① これまでの閉校施設の利活用状況を問う。
- ② 旧雲雀丘小学校校舎が地域利用できない理由を問う。
- ③ 青少年ホームにかわる音楽等に利用できる施設について問う。

(2)犯罪のない安全安心なまちづくりについて

島根県立大学生が理不尽に命を絶たれるという悲惨な事件から、この記憶を風化させることなく、命を尊び、だれもが安全で安心して暮らすことのできるまちづくりを推進するため、市民一人ひとりが命の尊さと安全安心について考えるために「いのちと安全安心の日」を制定されているがその後の推進を質す。

- ① 犯罪のない安全で安心なまちづくりの推進状況を問う。
- ② 地域の安全に有効な防犯カメラの設置が進んでおり、またドライブレコーダーの活用についても様々な視点で予防に寄与していると考えが認識を問う。

(3)浜田市消防の体制整備について

- ① 浜田漁港波止から海に乗用車が転落した水難死亡事故から、その後海上の救助体制がつくられていると認識するが、現在の整備状況及び体制を問う。
- ② 様々な災害に対応できる訓練施設や資機材の整備状況を問う。

(4) 道路のバリアフリー化整備について

高齢者や障がい者などが円滑に利用できる道路(歩道)の整備について、バリアフリー法に基づき、ユニバーサル社会の実現に向け障がい者に優しいまちづくりを目指したハード・ソフト施策の充実の視点からの整備を質す。

- ① 誰もが歩きやすい道路の整備の状況を問う。
- ② 国県要望の実現性について問う。